

## 6 花き農薬展示ほ調査基準 病 害

### 1 白さび病

#### 1) 調査方法

最終薬剤散布後2週間目頃に、任意に10～20本を選定し、展開葉を上位から10枚について、発病程度別に調査する。なお、調査株は散布前と散布後の株は同一株にマークして録査する。  
発病程度別基準

程度	発 病 程 度	指数
A :	病斑が10個以上ある葉	5
B :	" 3～9個 "	3
C :	" 1～2個 "	1
D :	" ないもの "	0

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病葉数})}{5 \times \text{調査葉数}} \times 100$$

(表示方法)

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉数	発病葉率 (%)	発病程度別葉数				発病度	葉害
					A	B	C	D		
展示区										
対照区										

### 2 灰色かび病

#### 1) 調査方法

最終薬剤散布後2週間目頃に、任意に10株を選定し、全茎の発病茎率を調査する。花部の発病は、任意に選定した30本について発病程度別に調査する。なお、調査株は散布前と散布後の株は同一株にマークして調査してもよい。

発病程度別基準

程度	発 病 程 度	指数
A :	花序に50%以上発病したもの	5
B :	花序の5～50%に発病したもの	3
C :	花序にわずかに(5%程度)発病したもの	1
D :	発病のないもの	0

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病数})}{5 \times \text{調査数}} \times 100$$

### 3 うどんこ病、斑点性病害

#### 1) 調査方法

白さび病に同じ

発病程度別基準

程度	発 病 程 度	指 数
A :	病斑が葉の50%以上を占めるもの	5
B :	" 5~50%を占めるもの	3
C :	" 5%以下のもの	1
D :	発病のないもの	0

$$\text{発病度} = \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病葉数})}{5 \times \text{調査葉数}} \times 100$$

#### 2) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査葉数	発病葉率 (%)	発病程度別葉数				発病度	葉害
					A	B	C	D		
展示区										
対照区										

## 虫 害

### 1 アブラムシ類

#### 1) 散布時期・方法

アブラムシ発生時（発生初期に散布を行うと調査しやすい）

#### 2) 調査方法・回数

生育初期のキクでは1区5~10株程度の株を任意に選び株全体に寄生するアブラムシを調査する。生育中期~収穫期のキクでは1区5~10株程度を任意に選び各株の上位葉3~5葉程度を調査する。

バラでは1区10~20複葉を任意に選びアブラムシを調査する。つばみにアブラムシが寄生している場合は、1区5~10本程度つばみをマークして調査してもよい。

また、調査力所数は1区当り2~3ヶ所が望ましい（他の害虫も同じ）。調査株は散布前と散布後の株は同一株にマークして調査する。

調査は、散布前、散布3日後、散布7日後の3回行う。なお、試験薬剤がIGR剤の場合は、散布14日後の調査も行い、4回の調査とする。

（表示方法）

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	生 息 虫 数			散布前比		葉害
			散布直前	日後	日後	日後	日後	
展示区								
対照区								

## 2 ハダニ類

### 1) 散布時期・方法

ハダニ発生時（雌成虫の生息密度が0.5～3.0頭／葉の時期が望ましい）

### 2) 調査方法・回数

キクでは1区5～10株程度、1株3～5葉を任意に選び、寄生するハダニの雌成虫数を調査する。

バラでは1区10～20複葉を任意に選び寄生する雌成虫数を調査する。

調査は、散布前、散布3日後、散布10日後、散布20日後の4回行う。その間、次の防除が必要になるほど密度が増加したら調査を打ち切ってもよい。

### 3) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	生息虫数			散布前比			薬害
			散布前	日後	日後	日後	日後	日後	
展示区									
対照区									

## 3 アザミウマ類

### 1) 散布時期・方法

アザミウマ類の発生時

### 2) 調査方法・回数

キクでは1区5～10株程度、1株3～5葉を任意に選びアザミウマ類を調査する。

調査は、散布前、散布3日後、散布7日後の3回行う。

（表示方法）

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	生息虫数			散布前比		薬害
			散布直前	日後	日後	日後	日後	
展示区								
対照区								

## 4 コナジラミ類

### 1) 散布時期・方法

コナジラミ類発生時

### 2) 調査方法・回数

1区20～30葉程度の上位葉を任意に選び寄生するコナジラミ類成虫数を調査する（できれば下位葉を任意に3～5葉選び葉裏に寄生する蛹を肉眼で調査する）。

調査は、散布前、散布3日後、散布7日後の3回行う。

### 3) 調査結果

区別	農薬名	濃度・量 (倍)	生息虫数			散布前比		薬害
			散布直前	日後	日後	日後	日後	
展示区								
対照区								

## 5 ハモグリバエ類

### 1) 散布時期・方法

ハモグリバエ類発生時

### 2) 調査方法・回数

1区10~20株程度を任意に選び、全葉を調査し被害葉率を求める。

調査は散布前、散布3日後、散布30日後の3回行う。なお、調査株は散布前と散布後の株は同一株にマークして調査する。

### 3) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	被害葉率(%)			葉害
			散布前	○日後	○日後	
展示区						
対照区						

## 6 シロイチモジョトウ

### 1) 調査時期

散布前（直前が望ましい）、3~4日後（IGR、BT剤等では7~10日後までみる）散布時期は、若齢期（できればふ化初期）の1回でよいが、産卵期間が長期にわたる場合には複数回とする。

### 2) 調査方法

1区10株の幼虫数を調査する（若齢、中齢、老齢別の割合を記録しておくと参考になる）。花への食入がある場合には、解体調査する。

### 3) 表示方法

数 値：株当たりの生息虫数、散布前比率

### 4) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	生 息 虫 数			散 布 前 比			葉害
			散布前	日後	日後	日後	日後	日後	
展示区									
対照区									

## 7 ネグサレセンチュウ

### 1) 散布時期・方法

指定された方法による。

### 2) 調査方法・回数

野菜類に準じてを行い、キクの収穫時に根の被害状況を甚、多、中、少、無の程度別に20株調査し、寄生株率、被害指数を求める。（できれば、ベルマン法により土壤中のセンチュウ密度を定植前と、収穫時に調査する）。

### 3) 調査結果

区 別	農薬名	濃度・量 (倍)	調査株数	被害株数	被害株率 (%)	被害度	葉害
展示区							
対照区							